

ビオトープだより第4号

会員・BAよりビオトープに関する情報を提供します。


 特定非営利活動法人
 日本ビオトープ協会
<https://www.biotope.gr.jp/>

1. 第12・13回ビオトープ顕彰ご報告

昨年4月の顕彰委員会（審査）が新型コロナウイルス感染症対策のため延期、本年4月8日に第12回・13回あわせて審査を行いました。（一部委員はズームにて参加）下記は賞とビオトープ名称、顕彰委員長・協会代表顧問、鈴木邦雄先生の講評です。ご受賞おめでとうございます。



なお、表彰式、事例発表（大賞、他）は、10月22日「ビオトープフォーラム in 横浜 2021」（予定）にて行います。

ビオトープ大賞：ヤンマーミュージアム（近畿地区、滋賀県）

アミューズメント施設の屋上に設けられており、『自然との共生』をテーマとしたビオトープである。琵琶湖の自然・生き物と生物多様性を学ぶ貴重な空間として活用されている。環境に対する企業理念を反映しており、維持管理も適切に行われていることは高く評価できる。

審査委員長賞：いきがい村里山ビオトープ（北海道東北地区、福島県）

老人保健施設内の山林・湿地を整備し、多彩な生物空間・里山の原風景を取り戻している。施設利用者の憩いの場、リハビリの場、生きがいの場として、利活用される。分布の北限あるいは南限となる生き物が多数生息する場となっている。

協会会長特別賞：ECO35（エコサンゴ）（中部地区、愛知県）

熱田神宮をモデルとした森づくり、絶滅危惧種を含めた里地の生き物の生息地・ビオトープづくり、小学生とともに田んぼの再生など、『都心の土地に自然豊かな古の姿を取り戻す』をコンセプトとした活動をしている。

協会会長特別賞：タガメビオトープ（近畿地区、兵庫県）

タガメの里を目指して、姫路市の協力を得ながら、放棄田 3.5ha から始まり、20年以上にわたって活動を続けている。滋賀・京都・兵庫などからの会員も活動に参加し、環境教育の実践の場となっている。

環境活動推進賞：湯屋のヘーベルビオトープ（近畿地区、滋賀県）

2018年にCSR特別賞を受賞したビオトープであり、「ため池文化」再生という視点で、トンボの生息地となるビオトープ池の整備を進めるなど順応的に管理が行われている。

維持活動功績賞：エアマン・エコロジカルパーク 100年の森づくり（北陸信越地区、新潟県）

工場敷地の森づくり・ビオトープ創成を40年以上続け、現在、樹林が茂り、多様な生き物の生息地となっている。2017年に生物相調査を実施し、環境教育も継続している。

2. 「渋谷栄一に学ぶSDGs」

総務委員長・主席BA 梶岡幹生

2021年4月3日 BSスペシャル
「渋谷栄一に学ぶSDGs」ー持続可能な経済を目指してー



このテレビを見て私（梶岡 幹生）が感じたことをメモしてみました。



新一万円札の顔 渋谷栄一

- ◇ 渋谷栄一が作ったといわれている
8万社加入の東京商工会議所では
「逆境の時こそ力を尽くす」という
モットーのもと企業のサステナビリティを指導しています。



- ◇ 道徳と経済とは ともに共立して進むべきものです。
「論語と算盤」はSDGs(持続可能な開発目標)そのものを言っています。
企業は次の100年も継続するような会社にするべきである。
会社を残すとか、広大な不動産を残すとか、そういう事は実はなくて
子孫には残さない、資産を残さない人だったのです。
実はすごく大切な貴重な財産を残してくれました。それは言葉なのです。
言葉は減らなくて 相続税が取られるわけでもない。
逆にその言葉を今の時代に表現するとその意味が膨らむし増えるのです。
- ◇ 渋谷栄一は資本主義という言葉は使ってなくて「合本主義」だった。
価値をつくるもとがあって、それを合わせて新たな価値をつくるのが合本主義。
一滴一滴の滴というものがあり、ステークホルダー(企業活動を行う上で関わる全ての人)
ステークホルダー資本主義と同じ考えが日本には150年近く前、日本で資本主義を
導入した時から実は同じような思想を持っていたのが渋谷栄一だったのです。



車内吊りポスター (東急グループ提供)